



寒り多き新しい年に



学長 武藤 輝一

新しい年を迎え、学生諸君も教職員の皆さんも、何とはなしに、あるいははつきりと意識して、今年こそは：という覚悟を持っていてるのではないでしょう。か。とくに本年3月に卒業式を迎える4

年生の皆さんは4月からの社会人としての出発に期待を寄せていることと思います。

最近ほどの大学でも、在学中に「キャリア（開発）教育」が行われ、インターンシップを経験させるようになりました。「キャリア（開発）教育」の言葉が用いられ始めたころ、この言葉の意味する

自信と責任を持ち 積極的に行動しよう

ところを理解できる人は多くはなかったのではないのでしょうか。

「キャリア（開発）教育」の始まりはなんといっても「個々の人の自己分析と認識」でありま。中学生は中学生なりに、大学生は大学生なりに、自分の善い点はどこか、悪い点はどこかをよく知り、悪い点はどうして直したらいいか、まずは近い将来に向けてどうすればいいのか考えることでしよう。私は小学校6年生の時、3年生の時からの担任であった

先生に懇々と諭されました。いまだに欠点の直らないところがありますが、その時覚悟したことは私人間社会の中で生きて行くための道標となりました。

ところで本学の「キャリア（開発）教育」では、本学を卒業し現在社会で活躍中の先輩方の話を聞くことができます。在学生の

諸君には先輩からの話を貴重な助言としながら、将来に向けての自らの確固とした意志を持つてもらいたいと思います。本学では新潟県出身の学生諸君が多く、首都圏の企業や機関に就職した場合、所属の企業や機関の皆さんから、新潟の人は大変真面目でおとなしい人が多いですね」と言われることがありますが、時にはその言葉の裏には「ブライトがなく、積極性がな」という意味を含んでいることがあります。平素の自分の発言には

自信と責任を持ち、積極的に話し行動することにしましょう。

若いときには永く見える短い人生です。あつと思う間に月日が過ぎ去ってしまいます。新しい年の二日二日を大切に過ごしたいものです。

皆さんにとって寒り多き一年となりますよう祈念致しております。

CONTENTS

2・3面

次期学長に平山征夫前新潟県知事情報システム学会全国大会を開催韓国で慶熙大と再び学術交流ノースウェストから学部長が表敬

最終講義のご案内 新任教員紹介

4・5面

私の研究テーマ
お薦めBOOK
教員の活動(2007年下半期)

6面

3回の国際理解セミナー
写真家・板垣真理子氏を迎え連携講座
青少年のための科学の祭典に参加

7面

卒論中間発表会開く

企業懇談会に過去最高の参加 平成20年度入試日程案内

8面

卒業生の便り
「紅翔祭」報告
湧源(編集後記に代えて)

次期学長に平山征夫前知事

教育への情熱と地域貢献に期待



学校法人新潟平成学院は12月12日、理事会の推薦する候補者について学長候補者選考委員会を開催、その答申を受け引き続き開かれた理事会において本学の次期学長に、前新潟県知事の平山征夫氏を全会一致で決定しました。任期は平成20年4月から4年間。2期8

年務め任期満了となる武藤輝一現学長・理事長は理事長職に専念し、学校法人の経営を担うことになりました。

平山氏は柏崎市出身。日本銀行新潟支店長などを経て平成4年から3期12年にわたり県知事として県政発展に尽力されました。県内

大学長と懇談会を開催するなど高等教育の充実にも積極的に取り組まれ、平成6年の本学開学に当たっては多くの指導をいただきました。

に対応し、教育研究等の学内改革を継続しつつ、地域に開かれた大学としてさらなる発展に向けたリ・デザインが期待されます。

県知事退任後は平成17年4月から、長岡技術科学大学の特任教授として地域経営概論や実践企業論などの授業を通じ、学生教育に熱い情熱を注がれています。地方の私立大学がおかれた厳しい環境

にもますます厳しくなるが、地域の人材育成の中核として生き残れるよう、魅力ある大学づくりに全力を傾けたい」と抱負を述べています。

武藤学長は理事長職に専念へ

情報システム学会全国大会 本学で開催

「情報システムによる価値の創造」地域からの挑戦」をテーマに、情報システム学会の第3回全国大会・研究発表大会が11月30日・12月1日の両日、本学新潟中央キャンパスにおいて開催されました。

情報システム学会は、情報システムの新しいあり方を求めて、産学の有志が研究、議論、交流する場として2005年4月に、北城格太郎経済同友会前代表幹事を会長として発足した学会です。事務局が本学にあることから、地方で初めての全国大会が新潟で開催されました。参加者は165名で、本学の学生も62名が参加しました。県外からの参加者に占める企業と大学関係者の比率はほぼ半々で、大学関係者が主体の通常の学会に比べ情報システム学会の特色となっています。

「災害と情報システム」

泉田知事らが特別講演

新潟では平成16年の中越大地震、翌17年の新潟大停電、そして昨年の新潟県中越沖地震と多くの災害を経験しました。災害の救援・復旧・復興は人間活動を含む情報システムの再構築の過程でもあることから、12月1日には「災害と情報システム」をテーマに特別講演が行われました。災害対策の最高責任者として多くの活動の指揮を執ってこられました泉田裕彦新潟県知事から「社会的システムとしての救援・復旧・復興活動」に関して講演をいただきました。またすべての災害を経験されました今井辰夫コロナIT企画室副部長からも、「業務の継続性確保に有効な人間の活動を含んだ情報システムの開発」の講演をしていただきました。多くの具体事例や現場の写真等による講演内容で、参加者の7割を占め

「年金記録」倫理面でも活発な討論



た関東地域からの参加者の皆さんに有用な講演となりました。

研究発表は同日に5会場に分かれて、災害と情報システム、リスク対応、企業システム、ITと情報システム、情報システム環境、人材育成、新しいアプローチなどのセッションとして

42題が発表されました。それぞれに発表20分、質疑10分で、質疑の時間には活発な議論が交わされ、情報システムに関する新しい動向を参加者で共有することができました。特別講演に関連した地域セッション「災害と情報システム/地域からの挑戦」においては、県市地域企業・大学の関係者のご協力により10件の研究発表を行なうことができました。このような活動を継続し新潟地域の情報サービス産業の活性化に役に立つようになることを願っています。

また、11月30日には年金記録管理システム問題討論会が開催されました。社会的に関心の高いこの問題について、既に公表された報告書の実態に基づき、パネリストの先生をはじめ、参加者を交えた活発な討論が展開されました。情報システム専門家の専門性と倫理、受注企業の倫理と説明責任、受発注構造とその問題点を中

新任教員紹介



山下 功
(情報システム学科・講師)

＜担当科目＞
管理会計、財務会計、基礎演習、情報処理演習U1、情報システム演習、専門演習C、卒業研究
＜専門分野＞
会計学。大学・大学院では管理会計を専攻。企業では財務会計の業務に携わり、2000年の「会計ビッグバン」を実地で体験。現在は、複数企業間での連携における戦略的原価管理を研究。
＜略歴＞
1996年3月 横浜国立大学経営学部会計・情報学科卒業。
98年3月 同大学院経営学科研究科修士課程終了。
98年3月～2003年4月 ミツミ電機株式会社 経理部。
07年9月～ 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師。

http://curry.nuis.jp/issj07/
http://issj.nuis.jp/
(情報システム学科 教授
高木義和)

最終講義

のご案内

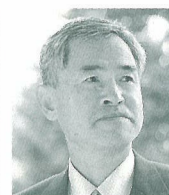
140教室

永年にわたり本学に多大な功績を残されました。情報システム学科の永井武教授と、樋口光明教授が定年を迎えられます。

永井先生は開学1年後の平成7年4月から、樋口先生は翌年の平成8年4月から教壇に立たれ、本学の発展のためにご尽力いただきました。つきましては両先生の貴重な体験をお聞かせいただく最終講義を次の日程会場で開催します。卒業生・在校生の多くの皆さまの参加をお待ちしています。

■新潟国際情報大学本校（みずき野）

2月16日（土曜日）



午後1時 永井 武先生
「私とインターネットの関わり
および最近の話題—Googleを中心として—」



午後2時 樋口 光明先生
「人工知能システム開発の
これまでとこれから」

韓国で、慶熙大学と2度目の学術交流

韓国・ソウルの慶熙大学校国際教育院で11月2日、同院と本学との共催で「日本人韓国語学習者のための韓国語教育」と題したシンポジウムが開催されました。

「韓国語教育」テーマにシンポ

教材や授業の実践報告 韓流ブーム影響も肯定的に

このシンポジウムは2005年11月26日に本学新潟中央キャンパスで行なわれたシンポジウム「国際化時代における韓国語教育」に引き続き、本学と慶熙大学校との学術交流の一環として開催されました。会場には韓国語教育を専攻する大学生など100名以上が参加しました。

まず午前、「日本人のための韓国語教育発展方策」と題し金重燮氏（慶熙大学校国際教育院長）が基調講演を行いました。引き続き元本学教授で現在は福岡大学で教壇に立たれている広瀬貞三氏が「韓国と日本・九州の交流現況」と題した講演を行いました。



また本学情報文化学科の申銀珠教授・吉澤文寿准教授が「新潟国際情報大学の派遣留学制度について」と題して、派遣留学制度の現状と課題について報告しました。

午後には研究報告および授業実践報告が行われました。慶熙大学校国際教育院の李定熙氏と酒匂康裕氏による報告

「日本人学習者のための韓国語教材および教育課程開発」は、国際教育院で学ぶ日本人学生を統計的に分析して、その学習動機などを追究しました。

金沢大学の南相璽氏による報告「日本における韓流と韓国語学習」は、韓流ブームが外国語学習における韓国語のステータスを高めたとして、日本人の韓国語学習における韓流ブームの肯定的影響について論じました。

本学非常勤講師の朴修禧氏

による報告「新潟県内の韓国語学習の現状と学習者の学習傾向」は、学習動機や学習目標などが学生と社会人の間で異なることを明らかにし、学習者のニーズに応える教材や教育方法の開発の必要性を示しました。同じく本学非常勤講師の金世朗氏による報告「日本人学習者の立場から見た慶熙大学校初級教材」は、本学学生らに行ったアンケートを分析して国際教育院のテキストに対する満足・不満足を検証するとともに、この教材を使った実際の教授方法をビデオで紹介しました。その後、休憩を挟んで総合討論が行われました。

こうして、本学と慶熙大学との2度目のシンポジウムは成功裏に終了しました。この機会を通じて、語学教育のさらなる発展、また異文化理解のさらなる進展に向けて多くの示唆を得ることができました。関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

（情報文化学科・准教授 吉澤文寿）

ノースウェストミズーリ州立大から学部長が来学

本学の派遣留学アメリカコースの提携校であるノースウェストミズーリ州立大学から10月下旬、教養学部長のチャールズ・マクアダムズ博士が来学されました。マクアダムズ先生は2005年にはバード学長とともに来学されており、今回が2度目の訪問となります。

学生と親しく懇談／派遣留学の一層の発展を確認

折しも本学では、10月9日から29日まで、国際交流センターにおいてアメリカウィークを開催し、ノースウェストを含めたアメリカ関係の資料を展示中で、マクアダムズ先生をお迎えするに絶好のタイミングでした。

マクアダムズ先生は23日に、まず武藤輝学長と面会された後、高橋正樹情報文化学科長や留学担当の教職員数名と会談。開始から7年、半期制に移行して3年目となる派遣留学アメリカコースの一層の発展と、両学のさらなる協力関係の構築に向け、建設的な話し合いがもたれました。

その後、昼休みの一部を利用して、学生との懇談会が国際交流センターで開催されました。マクアダムズ先生がスライド等を利用してノースウェストについて説明されると、学生からも英語で活発な質問が出されました。懇談会に出席した、留学経験者やこれから留学を考えている1年生にとっても、大変貴重な時間になったと思います。夜には、マクアダムズ先生を囲んで学部・学科関係者との夕食会が開かれ、忙しい日程にもかかわらず未来へ向けて実り多い1日となりました。

（情報文化学科・准教授 矢口裕子）



私はこの4年間というものの、第2次世界大戦末期の、ある一機のB29戦闘機の乗務員を巡る複雑でやっかいな執筆に取り組んできました。それは1945年7月20日、旧横越町に近い旧焼山村でB29が撃ち落とされたとき、乗務員を捕らえた村人たちにかかわる物語でもあります。数年におよぶ調査の結果、新潟の歴史にたぐいまれな事件を取り巻く謎がようやく解け始めました。あの夜死んだ4人の男たちは、どのようにして命を落としたのか？

Field of Spears(「戦場」)が凡百の類似書と異なるのは、私が村人と元乗務員という、

この事件の両側の証言者にインタビューできた点が大きいといえます。加えて、この分野における大量の記録文書と日本人の回想録、アメリカの情報公開法案により機密扱いが解かれて間もない報告書類に負う

ん。
7月20日の事件の後日談は、物語形式で綴りました。まず、村人たちがいかに乗務員の捕囚をめぐる出来事を隠蔽しようとしたか、捕虜となつたB29乗務員たちの恐ろしい

「B29戦闘機の捕虜と村人の物語」

情報文化学科教授 グレゴリー・ハドリー

ところも多々あります。この本の二つの見せ場は、新潟で撮影された初公開となる一連の写真です。それらは、乗務員が捕虜となりリンチが加えられた様子を明らかにし、われわれの胸をえぐらずにはおきませ

この研究はしかし、半世紀以上前に起きた事件を物語るにとどまるものではありません。歴史の輪が一巡したいま、本書は今日われわれの生活を脅かす人権問題に洞察を与え、現代の兵士が安全な高みから恐怖と怒りに囚われた暴徒の手に落ちたとき、何が待ち受けているかを思い起こさせ、われわれの頭を冷やしてくれるでしょう。(訳矢口裕子)
左記のウェブ頁(外国人特派員協会での英語による会見の様様)も参照を。
http://www.unisac.jp/hadley/publication/roscfcpj/Presentation_FCCJ_300k.swf

私の研究テーマ

みなさんが「会計」という言葉から真っ先に想像するのは、テレビや新聞で報じられる決算発表ではないでしょうか。これは株主や投資家などへ企業の業績を報告するものであり、このように、外部の利害関係者への報告を目的としている会計を財務会計とい

ます。
それに対して、管理会計は企業の目標を達成するために用いられるもので、企業の内

管理」が管理会計の中心を占めています。

また、管理会計の手法は、ジェネラル・エレクトロニクス(GE)やトヨタ自動車をはじめとした、数々の企業での実践から生まれたものが多いのが特徴

管理会計はマネジメント・アカウントINGを和訳したものです。ところが「管理」という言葉には「人を締め付ける」という印象があるため、「経営会計」と呼ぶべきであるという考え方もあります。これは、

「経営に役立つ管理会計」

情報システム学科・講師 山下 功

です。そのため私たち研究者は、企業でどのような経営が行われているかに常に関心を持ち、その中から優れた手法を「発見」することが求められます。

管理会計の内容を的確に表現した名称であると思えます。
管理会計の研究領域は多岐にわたりますが、現在私は「企業間原価管理」の研究を

行っています。現代の高度に技術化された社会においては一つの企業で物づくりが完結していることは稀です。例えばソニーやデルなどのパソコンメーカーは、マザーボード、CPU、メモリ、ハードディスク等の部品を他社から購入して組み立てています。そのときパソコンメーカーの中だけではなく、企業の範囲を超えて部品メーカーも含めて原価管理を行うことによってさらなる原価削減の機会を得ることができるようになり、利益を増加させる効果が期待できます。

近藤進(情報システム学科・教授)

・講演「情報インフラと災害に対する情報通信の課題」信越総合通信局、信越地方非常通信協議会、信越情報通信懇談会「安心安全な社会の実現」のための防災セミナー(ホテル新潟、2007年7月4日)。

佐々木寛(情報文化学科・准教授)

・(2007)「柏崎刈羽原発被災から見えたもの—リスク社会とアジア原子力政治の未来」『アジア時報』12月号(2・3頁)。
・講演「ナヌムの家を訪れて—エクスポートジャーとしての平和教育」北東アジアの女性史を学ぶ会(万代市民会館、2007年7月15日)。
・コーディネーター「徹底討論『平和』」ナインにいがた主催(クロスパルにいがた、2007年9月17日)。
・講演「地球人的政治学—南北問題と日本」大田区民大学・地球人セミナー(大田区民プラザ、2007年10月2日)。
・講演「ようこそ平和学へ」坂井輪地区公民館人権講座第1回(同公民館、2007年11月7日)。
・講演「世界社会の現状と国際理解教育の意義」定時制・通信制チャレンジ事業(文部科学省)第5回実践研究委員会(新潟県立新潟翠江高等学校、2007年11月21日)。
・講演「なぜ今、格差社会なのか、それは社会の仕組みか、自己責任か？」アルザフォーラム2007(万代市民会館、2007年11月24日)。
・「対テロ戦争と人権侵害」アムネスティ・インターナショナル「ラビア・カーディル講演会」解説(クロスパルにいがた、2007年11月25日)。
・講演「コミュニティと平和」坂井輪地区公民館人権講座第4回(同公民館、2007年11月28日)。

・司会「憲法9条でふるさとを守るか—生活・地域からの平和構想」市民文化フォーラム(総評会館、2007年12月8日)。

・講演「この国のゆくえ—新テロ特措法と憲法」9条しばたネット(新発田市カルチャーセンター、2007年12月14日)。

藤瀬武彦(情報システム学科・教授)

・(2007)「『免許』とその『更新制度』について思うこと」『新潟体育学研究』第24巻、14。
・編集「筋力トレーニングの三大基本種目で競技を行うパワーリフティングを始めてみませんか」新潟県パワーリフティング協会発行、共立印刷(全22頁)。

武藤輝一(学長)

・特別講演「胃切除術式とその再建術式の変遷」第10回横浜北部臨床消化器研究会(昭和大学横浜北部病院消化器病センター、2007年12月8日)。

吉澤文寿(情報文化学科・准教授)

・書評:長田彰文『日本の朝鮮統治と国際関係』(平凡社、2005年)『歴史学研究』第829号、2007年7月。
・講演「日韓会談文書公開運動から見えてきたもの」日韓会談文書・全面公開を求める会裁判報告集会(東京・弁護士会館、2007年9月25日)。
・研究報告「日韓会談第3次開示文書の不開示部分の検討」日韓会談文書・全面公開を求める会講演・総会(東京・YMCAアジア青少年センター、2007年12月16日)。

『新潟 地図ウオッチング』

鈴木郁夫・赤羽孝之監修

新潟地図ウオッチング編集委員会編著
新潟日報事業社(2006年)

みなさんは「地形図」と呼ばれる地図を見たことがあるでしょうか？

地形図は2次元座標上に描かれた等高線という曲線を読むことで3次元的な空間認知を可能にするものです。つまり地形図を見るときにはその土地を真上から立体的に俯瞰することにほかなりません。さらにさまざまな地図記号によってどこに何があるのかはもとより、土地利用や植生の状態、場合によっては地質までも大まかに把握できてしまう。地形図こそは地理的情報の宝庫なのです。

本書は、新潟県内から109地域を

お薦め Book

本書図書館のWEBサイトに個性あふれる教員たちの紹介文が載っています。アクセスしてみてください。
(<http://www.nuis.ac.jp/ic/library/book/book2005.htm>)

『運は数学にまかせなさい』

—確率統計に学ぶ処世術—

ジェフリー・S・ローゼンタール著

中村義作監修 柴田裕之訳

早川書房

STRUCK BY LIGHTNING

The Curious World of Probabilities

By Jeffrey S. Rosenthal

「確率が高い」と「可能性がある」とを混同している例を良く見受けられます。とかく日本人は確率という言葉に弱いようです。例えば、「いい人の方が高収入—従業員の快活さと親切心が2%向上するたび、年収が1%増加する」との記事は何を伝えたいのでしょうか。

私たちは無作為性と不確実性に満

取り上げ、主に国土地理院発行の「25万地形図」を用いながら、その土地における特徴的な自然景観、産業、文化遺産等を簡潔に紹介したものです。読者は見学ルートの入った地形図をじっくり眺めながら解説を読むことによって、文章だけでは到底得られないさまざまな情報の把握が可能となります。

本書に掲載された地形図の中に、自分の生まれ育った場所が含まれているという人は少なくないかもしれません。しかし、そこがどんなところかを地形図上で実際に確認したことがある人はほとんどいないのではないのでしょうか。国際化も大切ですが、自分の地元を知ることがもっと大切なことだと私は常々考えています。本書は、新潟をより深く知りたいと考えている人のためのガイドとして、あるいはテキストとして最適な冊です。

(情報文化学科・教授 澤口晋二)

ちた状況や選択の機会にたえず直面していますが、そのことをただ意識して生活しているのでしょうか。また、確率を少し勉強したからといって、どれだけの役立てられるのでしょうか。これらの疑問に明快かつ簡潔に答えているのがこの著書です。身近な問題をひもとくための確率利用本は多く出版されていますが、この著書のように、数学が押し付けがましくなく、また、論理的にも「まかし」の無いものは珍しいです。

読後の謝辞に、私が数年悩んでいる問題の2次元版を論じた統計学者の名前を目にしました。著者の指導教官であつたらしいのです。この著書を私が手に取る確率を考えると、これは私への励ましか、あるいは偶然によるものなのでしょうか。

(情報システム学科・講師 小野陽子)

教員の活動(2007年下半年・本人申告による)

1) 研究論文・図書

池田嘉郎(情報文化学科・講師)

・(2007)『革命ロシアの共和国とネーション』山川出版社(全286頁)。

臼井陽一郎(情報文化学科・教授)

・'The Democratic Quality of Soft Governance in the EU Sustainable Development Strategy: A Deliberative Deficit.' *Journal of European Integration* Volume 29 Issue 5, pp.619-634. (Dec. 2007).

・(2007)「気候変動問題の構成と国際共同行動の展開:気候変動レジーム・国連環境計画・欧州連合(3・完)」『慶應法学』第8号(75-121頁)。

小山田紀子(情報文化学科・教授)

・共著(2007)「アルジェリア」平野健一郎・牧田東一監修『対日関係を知る事典』平凡社。

長坂格(情報文化学科・准教授)

・2007, "Cellphone in the Rural Philippines" in Raul Pertierra (ed.) *The Social Construction and Usage of Communication Technologies: Asian and European Experiences* Quezon City: Univerisity of the Philippine Press, pp. 100-125.

2) 学会・研究会報告

池田嘉郎(情報文化学科・講師)

・「スターリンのモスクワ改造と水辺空間」都心・ベイエリア、海外都市再生プロジェクト合同研究会(法政大学大学院エコ地域デザイン研究所、2007年7月18日)。

・「現代都市類型から見た20世紀モスクワ」都市史研究会シンポジウム(東京大学、2007年11月10日)。

臼井陽一郎(情報文化学科・教授)

・'A Discursive Perspective on the Construction of an Environmental Acquis in the EU and ASEAN.' 2007 UACES International Conference: Exchanging Ideas on Europe. Panel 4: Environmental Policies. The University of Portsmouth 3rd-5th Sep.2007.

區建英(情報文化学科・教授)

・「中国の国粋派と日本の国粋主義」奎章閣韓国学研究院「近代東アジアの歴史とアイデンティティ」(韓国・ソウル大学校、2007年9月13-14日)。

・「厳復の中西文化『会通』と自由」福建省厳復學術研究会「厳復の思想と中国の近代化」(中国・福州、2007年11月24-25日)。

小林元裕(情報文化学科・准教授)

・「『東亜新秩序』と中国—汪兆銘政権・蒙疆政権の分析を中心に—」日本植民地研究会第15回全国研究大会「東アジアにおける『共同体』論の諸相—植民地・占領地研究の視点から」(立教大学、2007年7月1日)。

藤瀬武彦(情報システム学科・教授)

・藤瀬武彦・他「アームレスリング競技者の形態的特徴及び上腕内旋力」日本体育学会第58回大会(神戸大学、2007年9月7日)。

山下功(情報システム学科・講師)

・「情報システムの投資評価方法」第3回情報システム学会全国大会・研究発表大会(新潟国際情報大学新潟中央キャンパス、2007年12月1日)。

吉澤文寿(情報文化学科・准教授)

・「日本における日韓会談関連外交文書の公開について」「韓日会談研究の新しい地平:国際比較研究」(韓国・ソウル:国民大学校、国民大学校日本学研究所、2007年10月13日)。

・「新潟国際情報大学の派遣留学制度について」シンポジウム「日本人韓国語学習者のための韓国語教育」(韓国・ソウル:慶熙大学校、2007年11月2日)。

3) その他

池田嘉郎(情報文化学科・講師)

・北海道大学スラブ研究センター冬期国際シンポジウム「アジア・ロシア:地域的・国際的文脈の中の帝国権力」第7セッション「民族運動・革命運動の場としてのアジア・ロシア」司会(2007年12月7日)。

越智敏夫(情報文化学科・教授)

・パネル討論者「『映像の政治学』は可能か?」2007年度日本政治学会総会・研究会(明治学院大学 白金キャンパス、2007年10月6日)。

・パネル司会者「ポピュリズム」2007年度日本政治学会総会・研究会(明治学院大学 白金キャンパス、2007年10月6日)。

・講演「市民政治における選挙の意味—政治は変えられるのか」新潟県平和運動センター主催(新潟県勤労福祉会館、2007年9月22日)。

小山田紀子(情報文化学科・教授)

・コメンテーター「現代フランスにおける植民地主義の記憶—『フランスのアルジェリア』から反アラブ人種差別へ—」マグレブ研究会 Benjamin STORA氏(パリ第8大学教授)「アルジェリア現代史とフランス」(上智大学アジア文化研究所、2007年12月7日)。

熊谷卓(情報文化学科・准教授)

・2007年度Jessup国際法模擬裁判世界大会日本支部大会において「書面裁判官」の責務を担当(同志社大学、2007年12月27日)。

小林元裕(情報文化学科・准教授)

・講演「北京・上海で考える日中関係」にいがた市民大学「体感・変わりゆく中国の都市—北京・上海のくらし—」(新潟市生涯学習センター、2007年7月26日)。

第1回

「私たちが東アジアで観光を語る意義―東南アジアでの日中韓の出会い」(10月5日午後3時より)

講師: 植屋史子氏(本学卒業生)。
神戸大学大学院国際協力研究科修士課程在籍。
(国際協力政策専攻)



第2回

「北米社会におけるキャリアの仕組み―MBA取得によるキャリアアップ」(12月7日午後6時より)

講師: Keyji Johnsen氏。現職はGI Product Manager, Therapeutics Marketing Department, Business Unit Therapeutics, Nihon Schering K.K.



第3回

「北米ロシアアジアにおける国際ビジネスの現状とキャリア形成・将来、国際的なビジネスを行うために、今、何をすべきか?」(12月13日午後6時より)

講師: Jim Fukushima氏。President, HNS International Inc.他。Lyude Anna氏。新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程在籍。齊藤正信氏(本学卒業生)新潟大学大学院技術経営研究科専門職学位課程在籍。



国際理解セミナー3回開催

本学の国際交流委員会では昨年度より、国際理解セミナーを開催してきました。本学学生が海外へ目を向ける機会をもうけること、これが目的です。授業外の時間に、学内で、定期的に、進めていこうと考えています。これまで3回にわたって実施してきました。いずれも会場は国際交流センターです。

毎回、多くの学生が足を運んでくれます。忙しい時間を縫って、駆けつけてくる教職員もおります。本学では、派遣留学制度(情報文化学科)と夏期セミナー(情報システム学科)を通じて、すでに多くの学生を海外へ送り出してきました。国際理解セミナーは、留学を決めかねている学生に対して、留学後の進路の広がりについて予感してもらうこと、および、留学した学生に対して、仕事の舞台を日本に閉じる必要はないと意識してもらうこと―この二つを狙いとしています。

情報文化学科・教授 白井陽一郎
(国際交流委員会委員長)

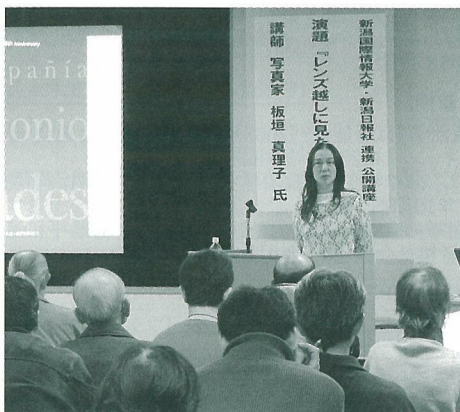
卒業生が講師、大きな刺激 海外へ目を向ける機会に

とりわけ、右記開催リストにありますように、本学卒業生を講師として招くことができるのは、在校学生たちの大きな刺激と



「レンズ越しに見た本物たち」

写真家の板垣真理子さんを講師に迎えて、本学と新潟日報社の連携公開講座が12月8日、新潟中央キャンパスで開催されました。「レンズ越しに見た本物たち」と題したお話に、参加された多くの方が魅了されました。



写真家・板垣真理子氏を迎えて

本学と新潟日報社の連携講座開く

など灼熱の地を愛して旅をし作品を発表しています。各地の文化、音楽、民族衣装、世界遺産などテーマを掘り下げて写真と文で熱いレポートを続け、踊るカメラマンの異名を持ちます。

今回は、フーテンコというものに知識もない人にも名前を知られているスペインのアーティスト、アントニオ・ガデアスとの出会い、彼が自ら結成したガデアス舞踊団やキューバのブエナ・ビスタ・シアル・クラブなどでの写真撮影・取材を通して感じたことを中心に、人柄、エピソードなど普段なかなか聞けなかったこと、苦労話も披露され好評でした。

「青少年のための科学の祭典2007」新潟県大会が11月24日・25日新潟県立大学にて行われ、本学から情報システム学科大山毅氏が参加しました。

「青少年のための科学の祭典」

大山ゼミが参加



Bで使用している反応時間測定装置を3台設置して、「反応時間を計ってみよう」と題して出展しました。LEDランプがついたら対応するボタンを押して、ランプがついてからボタンを正しく押すまでの時間を計るという簡単な実験です。数千人の人たちが実験に参加し、親子で競い合ったりして楽しそうにボタンを押していました。

中間発表会

9教室で123人が挑戦 熱を込め完成めざす

情報文化学科4年
次生の卒論中間発表会
が10月27日に本校（み
ずき野）キャンパスで行
われました。当日は雨の



中間発表会での委員
の主な仕事は、ポスター！
パンフレットの作成、また
当日の司会、タイムキ
ーパー、総合受付を分担し
て行い4年生の発表を
サポートするといったも
のです。進行の点では、
スムーズで発表がしやす
かったという言葉を4年
生からいただくことが
できました。

時間経過の通知に工夫を

4年生は自分の卒論
の途中経過を発表し、
教授や学生から質問や
意見、指摘等を受けま
した。これからさらに研
究を進めていく上での
ヒント・参考を得られ
る機会となりました。

発表会委員会代表・情報文化学科3年 石塚 武志
副代表・情報文化学科3年 小林 沙耶香

また、評価用紙を回
収するタイミングが難
しく、発表を終えた学
生が評価用紙をいつ受
け取るのか分かりに
くかったという点もあ
りました。

こうした利点難点を
踏まえ、今後、今後
もより良い発表会を開
催していただけたらと
思います。

員の司会進行により4年次生
123名の卒論中間発表が行
われました。熱のこもった報告
を行い、先生方や他の学生から
の質問に回答し、4年次生は緊
張感の中にも充実した1日を
過ごしました。

この発表会を契機に年末に
かけてよりよい卒論完成を目
指すこととなります。

過去最多の企業が参加

恒例の「企業懇談会」が11月
14日、過去最多の244社の企
業から335人の代表者や人事
担当者の方々の参加をいただ
き、ホテル新潟・新潟市中央区
万代）を会場に盛大に開催され
ました。日ごろ本学の就職活動
にご支援、ご協力いただいている
企業の皆さまを対象に、著名な
講師による講演会および懇親
会を催し、感謝の意を表する会

で、今回で12回目を迎えました。
当日はまず、武藤輝学長より
御礼のご挨拶と本学の教育方
針や研究
活動が説
明された
後、DVD
を利用してより分かりやすく、
より詳細な大学紹介が行われ
ました。また今年の特別講師に
は、ジャーナリスト高信彦氏を招

企業懇談会開く 高信彦氏を招き特別講演

き「これからの10年、企業と地
域を活かす感性」と題して
講演をいただきました。大きく
変化した時代に即した感性の
重要性について述べられ、参
加者に高い関心を持っていただ

のご発声で開宴となりました。
本学教職員との活発な
情報交換が行われ、さらなる
交流を深めることができ、
大変有意義な一日となりま
した。



講演する高氏

平成20年度 入学者選抜試験概要（要約一覧）

入試区分	募集人員	出願期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格者発表日
一般入試	情報文化学科 35	95	20年1月7日(月)～ 22日(火)	新潟 上越	・国語：国語総合（現代文）・現代文 ・数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ （数学Ⅱは、微分・積分を除く） ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	20年2月7日(木)
	情報システム学科 60					
	情報文化学科 15	35	20年1月30日(水)～ 2月14日(木)	新潟 上越	学科試験を課さず、20年度のセンター試験の 成績で判定。全教科の中から2教科2科目選択 配点：各教科100点。 （3科目以上受験した場合は高得点の 2教科2科目を合否判定に使用）	20年2月22日(金)
	情報システム学科 20					
	情報文化学科 10	25	20年2月15日(金)～ 3月3日(月)	新潟 上越	・国語：国語総合（現代文）・現代文 ・数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ （数学Ⅱは、微分・積分を除く） ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択	20年3月13日(木)
	情報システム学科 15					

（注）情報文化学科の定員は、情報文化学科100名、情報システム学科150名、合計250名です。

新潟国際情報大学 学費特別給付奨学金

一般入学試験（前期）
の成績により奨学金が
給付されます。
※予め、申込が必要です。

情報文化学科	3番以内Ⅰ種	8番以内Ⅱ種
情報システム学科	5番以内Ⅰ種	14番以内Ⅱ種

Ⅰ種	授業料全額（年額675,000円）
Ⅱ種	授業料半額（年額337,500円）

○入試と奨学金の詳細については事務局までお問い合わせ下さい。 TEL025-239-3111 E-mail gakumu@nuis.ac.jp



紅翔祭が開催された10月21、22日は、両日とも天候には恵まれませんでしたが、皆さまのご協力により無事終えることができました。

今年度は実行委員が2年生主体だったので何を行うにおいても苦難の連続でしたが、その中で先輩方のアドバイスや関係者の方々にご協力を仰ぎ、多彩なイベントを行うことができました。

父母会とみずき会のご後援による文化講演会では、俳優の黒沢年雄氏をお招きいたしました。「人生プラス思考で」と

紅翔祭を無事終えて

紅翔祭実行委員長
高津 安行 (情報システム学科2年)

いうテーマでご自身の体験談を交えたユーモアあふれる講演に、会場のたくさんの方々が聞き入っていました。

今年度は博多華丸・大吉、ハローケイスケ、タカダコーポレーションによるお笑いライブも開催され、見に来ていただいた大勢の方たちも今回のテーマである「HAVE A PLEASANT TIME」のとおりに、楽しいひと時を過ごしていただけたと思います。

準備期間や当日を振り返っても大変だったというイメージしか浮かんできませんが、実行委員のみんなと協力して紅翔祭という大きなイベントを成功させ、僕にとっても充実した日々を過ごすことができ、楽しいひと時だったと思えます。ご協力いただいた教職員、ご父兄、企業の方々に厚くお礼申し上げます。

楽しいひと時を提供できた

情報文化学科 2006年度卒業 小泉 佳奈子

卒業生の便り

「旅行業界」—どのようなイメージをお持ちでしょうか？私は、旅行がとにかく大好きで、接客も好きだったので、この業界に憧れを抱いて入社しました。そして早くも一年がたとうとしています。仕事の内容は、主に店頭営業で、カウンター受付をしています。今は、JRの切符や航空券、国内旅行の相談受付を担当しています。

入社した当初

は、右も左も全く分からず、時刻表の使い方すら分からない。先輩方の言っている言葉自体が専門用語や業界用語で、とにかく勉強の毎日でした。入社以前の私にとって、「旅行業界」といえば少し華やかなイメージがありました。しかし実際に働いてみると、予想以上に細かい作業が

CEP、留学の経験を生かして

あこがれの旅行業界に



社会人として心掛けていることは、正しい敬語が話せるようになること！行動に責任を持つこと！挨拶をしつかりすること！です。言葉遣いはいまだに悪戦苦闘中なので、学生時代に身につけておくべきでした。逆に、大学で学んで生きていることは、CEPに力を入れていたので、海外のお客さまがいらつしやると英語でのコミュニケーションが少しはできることです。また卒業旅行に約3週間、バックパックでアジアを回ってきたこともありました。そんな経験でいろいろな人との出会い、地域それぞれの食や文化、旅行ってこんなに面白いんだと肌で感じるようになりました。

世界はとてつもなく広いと思っています。ですが、大学での留学をきっかけに視野も海外へと広がりました。世界は広いけど、行けるんじゃないかな？と思っている今日このごろです。目指せ、世界一周！

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 越智 敏夫

「クラシック調のビートルズ」みたいなものほど唾棄すべきものはない。「イマジン」をバイオリンでとかやられると本当にうんざりしてしまう。ああいう曲を書いたジョン・レノンにも若干の責任はあるのかもしれないが、なんでまたクラシック調にしないといけないのか。そのまま聞けば良いではないか。ストーンズでも「アステア・アズ・ゴ・バイ」などは訳の分からん弦楽器のアレンジで飲み屋の有線放送から突然流れ出すことがある。酒量が増える一因である。

ロックの名曲を弦楽器用に編曲するというこの一連の愚行について愚考すると、けっこうやらしいイデオロギーが潜んでいるような気がする。まずロックが悪く、クラシックが良い音楽だと決めつける価値判断だ。嗜好の問題なので、誰が何を好きで何を嫌いでも良いのだが、このロック・クラシック編曲という制度化した行為には、その価値観を社会も共有しているはずだという発想が感じられる。さらにそれはそのクラシック至上主義者がロックのなかにも良い曲があると実は考えていて、それを俺さまが評価してやるよという妄想も潜伏している。ロックの表層と彼らが考えるもの、つまりドカドカうるさいあの演奏形態さえ排除できれば、そういう音楽も聞いてやらんことはないぞ、という尊大で病んだ自意識である。

そのような社会の病んだ価値観の強固さこそ、ロックが批判してきたものだ。だからこそアーティストたちがロールスロイスに乗るほどまで商業化しても、ロックは反抗という契機を失うわけにはいかない。したがって以上のような批判はロックシンガーがロック以外のスタンダードナンバーを歌うという愚行にもそのまま向けられる。末期のプログレッシブ・ロックが陥ったクラシックコンプレックスも恥ずかしい。ロックがロック的な存在を基盤を否定してどうするのか。元暴走族とか元ヤンキーという形容詞のつく人たちが説く道徳が、驚くほど現状肯定的で権力にこびるものになるのも同じ経緯による。簡単に反省するくらいなら、最初から反抗などしないでもらいたい。